

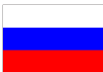
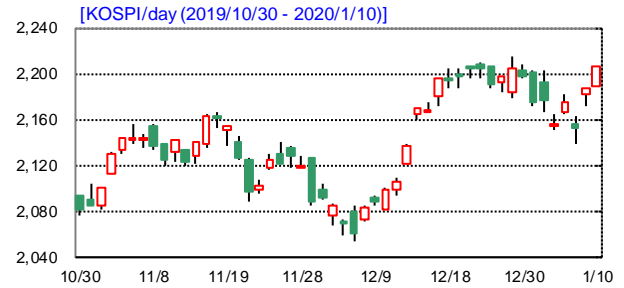


【韓国】 総合指数は週間で1.4%高と反発、中東懸念も週後半に巻き返し

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%高と反発。中東情勢をにらみ神経質な値動きとなったが、週後半に巻き返した。週半ばまでは一進一退の値動き。米国とイランの威嚇の応酬やイランが司令官殺害への報復措置としてイラクの米軍駐留基地を攻撃したことを受けて緊張が高まり、リスクオフの動きが加速する場面もあった。一方、業績期待からサムソン電子などハイテク株の一角が買われ、相場を支えた。週後半はトランプ米大統領が演説で本格的な武力行使を否定したことで中東情勢への懸念が後退し、買い戻し優勢。10日終値は2週間ぶりに2200ポイントを回復した。今週は米中が貿易交渉の「第1段階」合意文書に署名する見込みで、「第2段階」に向けた動きにも注目。国内では15日に失業率、17日に中銀基準金利が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は3.2%高と6週続伸、今週もルーブルの先高観が支援か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.2%高と大幅に6週続伸。原油相場が下落したものの、中東情勢の懸念後退やルーブル高が好感された。米国・イランの本格的な軍事衝突が回避される見通しが強まり、原油相場は反落したが、中東の地政学リスクの後退が安心感につながった。対ドルで19カ月ぶりの高値をつけたルーブルの先高観が支援となった。前週に原油高を背景に1.0%高と5週続伸した株価指数は先週も7日の休場を挟んで10日まで5日続伸。1614.69ドルで週の取引を終え、2013年2月中旬以来、6年11カ月ぶりの高値を更新した。個別銘柄ではロスネフチ、ルクオイル、ノバテックなど資源・エネルギー株や金融のズベルバンク・オブ・ロシアの上昇が指数を押し上げた。今週はルーブルの先高観が引き続き支援となるか。

▼指数チャート



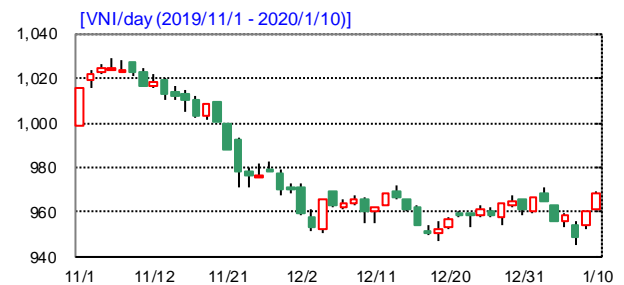
【ベトナム】 ベトナム指数は0.4%高と3週続伸、今週は中東の緊張緩和が下支え

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.4%高と3週続伸。中東の地政学リスクが意識され週前半に下落したが、米国・イラン双方が全面的な軍事衝突を回避する姿勢を示し、週後半に盛り返した。米中通商協議の進展を背景に前週に0.2%高と続伸したVN指数は中東情勢の緊迫化が嫌気され、8日には948.98ポイントと昨年6月上旬以来の水準に下落した。ただ、米国とイランが本格的な軍事衝突を回避する姿勢を示したことで、9-10日に続伸。10日は968.54ポイントで引け、11月29日以来6週ぶりの水準を回復した。個別銘柄では、ベトナム産業貿易商業銀行、ベトナム投資開発銀行、サイゴンビール・アルコール飲料などの大幅高が指数を押し上げた。今週は中東情勢の緊張緩和などを背景にリスクオンの流れが相場を下支えする展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%安、今週は 15 日に 19 年 12 月の貿易統計発表

ジャカルタ総合指数は週間で 0.8%安と続落。米国とイランの対立を背景に不安定な値動きが続いた。週初の 6 日は、金融株を中心に売り優勢の展開となり、指数は前営業日比 1.0%安と反落。7 日は 19 年の財政赤字が当初の予想を上回る対 GDP 比 2.2%に膨らんだことが明らかになったものの、中東情勢の緊張がやや緩和した効果で買い戻された。一方、8 日はイランがイラクにある米軍駐留基地を攻撃した影響で再び反落し、指数は終値で約 3 週間ぶりの安値を更新したが、9 日に反発すると、10 日はほぼ横ばいで引けた。今週は 15 日に 19 年 12 月の貿易統計が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

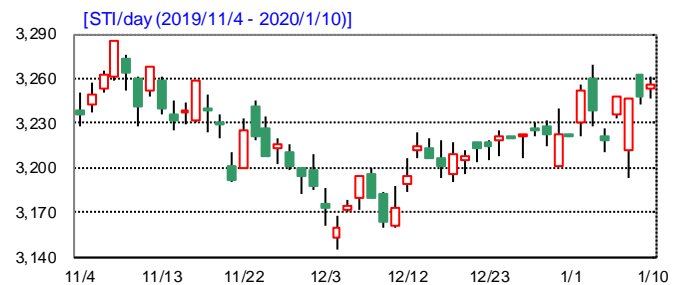


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.5%高、今週は 19 年 12 月の非石油地場輸出に注目

スレーツタイムズ指数は週間で 0.5%高と 3 週続伸。週初に下落したが、その後はおおむね堅調に推移した。6 日は前週末に発表された 19 年 12 月の製造業 PMI が 8 カ月ぶりに景況感の分岐点となる 50 ポイントに到達したものの、中東情勢に対する警戒感から売られ、指数は続落。ただ、7 日に反発すると、8 日は場中に一時、約 3 週間ぶりに 3200 ポイントを割り込んだが、引け際に買い戻されて終値では前日からほぼ横ばいだった。9-10 日は続伸して引けている。今週は 17 日に 19 年 12 月の非石油地場輸出が発表される予定。外部要因では、15 日に米中両国が貿易協議の「第 1 段階の合意文書」に署名する。

▼指数チャート

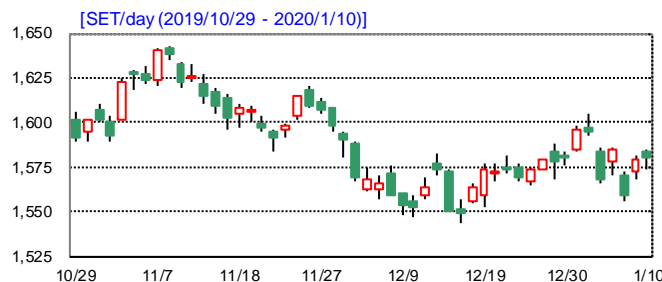


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%安、中東情勢を背景に荒い値動き

SET 指数は週間で 0.9%安と 3 週ぶりに反落。荒い値動きが続いた 1 週間だった。週初の 6 日は、中東情勢の緊迫化を受けて原油価格が上昇したが、金融株の一角が指数下落を主導し、終値で前営業日比 1.7%安と続落。一方、7 日は米国とイランの対立が全面戦争に発展する可能性が後退したとして買い戻され、前日比 1.1%高と反発した。ただ、買い優勢の展開は続かず、8 日は前日比 1.6%安と反落。9 日は前日のイランによる米軍駐留基地の攻撃に対し、トランプ米大統領が報復しない意向を示したことが好感され、1.3%高と反発した。今週も国内の重要イベントが少なく、引き続き中東情勢が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

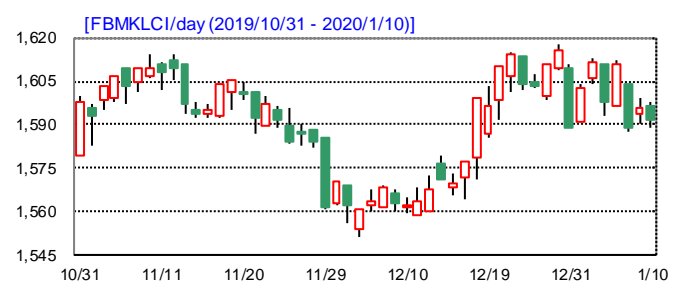


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%安、今週は 1600 ポイント回復に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.2%安と 6 週ぶりに反落。一進一退の値動きが続いた。週前半は 1600 ポイントを挟んでもみ合ったが、8 日は中東情勢の悪化に対する懸念が高まった影響で、指数は終値ベースで前日比 1.4%安と反落。週後半は終始 1600 ポイントを下回る水準での取引が続いた。10 日は 19 年 11 月の鉱工業生産が前年同月比 2.0%増と市場予想から上振れたものの、買い材料視されず反落している。今週は国内の重要イベントが少なく、中東を巡る各国の動向に加え、17 日に発表される中国の 10-12 月期の GDP や 12 月の固定資産投資、鉱工業生産などの経済指標の内容も意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。